

第1回 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会

グループワーク テーマ「多職種連携がうまくいった点、うまくいかなかった点」

【目的】

多職種に及ぶ在宅医療・介護関係者が一堂に会し、
「顔の見える関係」を構築することにより、連携強化を図る。

【開催日時】 平成25年1月18日(金) 19:00~21:00

活発な意見交換が行われました→

↓参加者同士による名刺交換会も実施



参加者 総数 158名 (市内全域から参加)

• 熊本市医師会	41名	• 熊本市訪問看護ステーション連絡会	10名
• 鹿本郡市医師会	1名	• 熊本市居宅介護支援事業者協議会	15名
• 下益城郡医師会	3名	• 熊本市地域包括支援センター連絡協議会	12名
• 熊本市歯科医師会	8名	• 熊本県介護福祉士会	2名
• 熊本市薬剤師会	8名	• 熊本市老人福祉施設協議会	2名
• 熊本県看護協会	2名	• 熊本県老人保健施設協会	1名
• 熊本県栄養士会	2名	• 急性期病院(医師、看護師、MSWなど)	23名
• 熊本県理学療法士協会	2名	• 区役所職員	9名
• 熊本県作業療法士会	2名	• 健康福祉子ども局職員	5名
• 熊本県MSW協会	5名	• その他	3名
• 熊本県歯科衛生士会	2名		

グループワークで出された意見(一部抜粋)

テーマ「多職種連携がうまくいった点、うまくいかなかった点」

多くの職種が関わることで生活状況や本人の気持ちなどを把握することができ、QOL向上につながった

多職種で情報共有する機会が少ない

医師に対して敷居が高いと感じている

退院前カンファで分担が明確になっていると良い

キーワード

- ・顔の見える関係(連携は大切)
- ・専門性の理解とその活用
- ・患者情報の共有
- ・連携のためのツール、テクニック

病院スタッフに在宅の視点がない

日曜に主治医に連絡がつかず救急搬送された

各職種の目標が明確化してあるとよい

家族や地域の理解が得られなかった

担当者会議で顔を合わせると、その後連絡しやすい

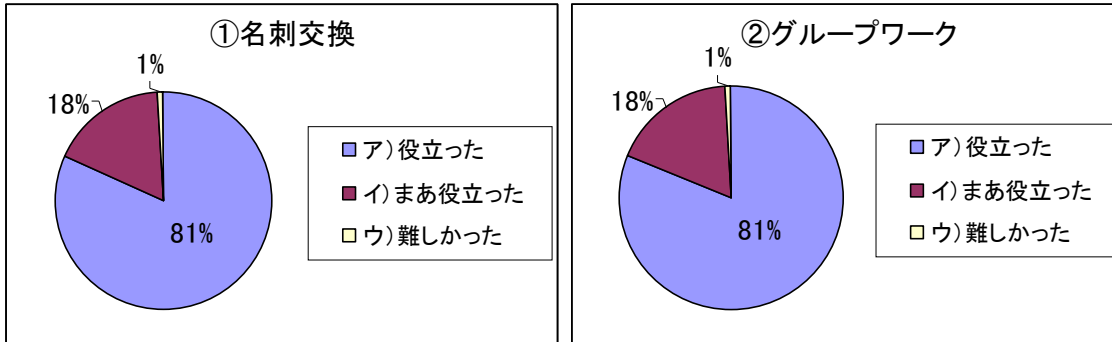
多職種の役割が機能し、独居や末期がんの方でも在宅生活が継続できた

患者や家族の思いを確認するのが難しい

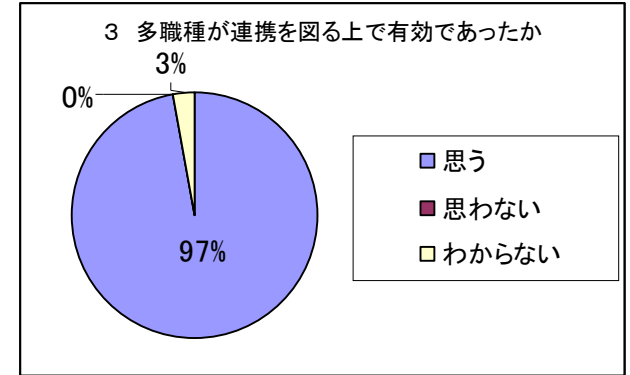
研修会後のアンケート

回答数 143 (回答率 90.5%)

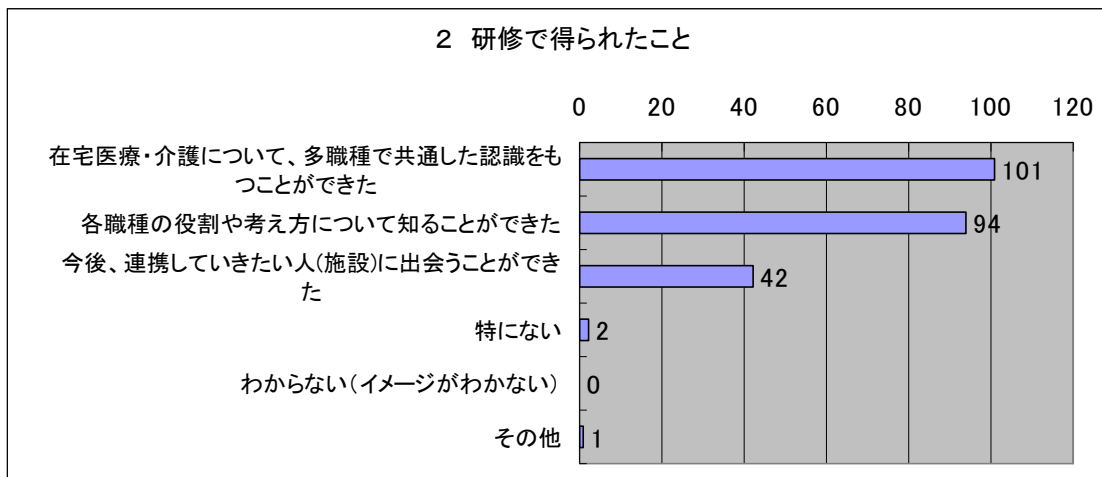
1 研修会のプログラムについて



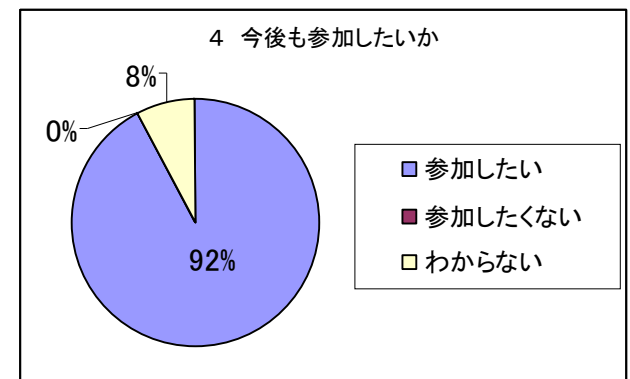
3 多職種連携に有効だったか



2 研修を受けて得られたこと (2つ以内)



4 多職種連携に有効だったか



研修会後のアンケート

7 研修会に関するご意見・ご感想

- ・とても有意義な研修会だった。
- ・違う職種、敷居の違いもあり連携を図ることは非常に難しいと思うが、今日の情報共有で少し明かりが見えた気がする。
- ・どんな職種、立場であろうと「連携」の重要性を感じており、「顔の見える連携」が重要であるということが良く理解できた。
- ・医師との顔の見える関係ができるのがとても役立つし、今後の連携が図りやすいと思う。
- ・地域の関係者が集まるのは大変意義があると思う。
- ・自分の勉強不足を感じた。改めて意識を向上させたい。
- ・今回問題になった事を深めたい。
- ・討論する時間が短かった。
- ・今後もグループワークを中心に、比較的短い周期で開催してほしい。
- ・これからの連携を考える討議が良い。
- ・今後、研修会のテーマを絞って開催すると、まとまった意見が出ると思う。
- ・もう少し小さなレベルの研修会が望ましい。
- ・他の職種も入れてほしい。
- ・研修会の継続を期待する。